

平成31年2月定例会 公社事業対策特別委員会の概要

日時 平成31年3月4日(月) 開会 午前10時 4分
閉会 午前11時13分

場所 第9委員会室

出席委員 中屋敷慎一委員長
美田宗亮副委員長
小久保憲一委員、白土幸仁委員、木下高志委員、本木茂委員、小島信昭委員、
浅野目義英委員、蒲生徳明委員、並木正年委員、秋山文和委員

欠席委員 なし

説明者 [企画財政部]
小野寺亘改革政策局長、三橋亨改革推進課副課長
[県民生活部]
矢嶋行雄県民生活部長、大浜厚夫県民生活部副部長、
谷澤正行共助社会づくり課長、浜雅俊文化振興課副課長
[福祉部]
沢辺範男福祉部副部長、播磨高志社会福祉課副課長、
服部孝こども安全課副課長

[公益財団法人いきいき埼玉]
岡崎守理事長、飯岡広子業務執行理事兼事務局長、梶村将管理部長、
関谷正博事業部長、岡野功いきがい大学支援部長兼就業促進部長
[公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団]
竹内文則理事長、木全義男専務理事兼事務局長、
近藤一幸業務執行理事兼総務部長、渡辺弘業務執行理事兼事業部長
[社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団]
牧光治理事長、藤原道彦副理事長兼本部事務局参事、
恩田隆弘理事兼あげお園長、塚田務本部事務局長、
武田一彦嵐山郷事務局長、戸澤武史上里学園長、川田民夫そうか光生園長、
大森明紀障害者交流センター所長

会議に付した事件

公社における改革の取組について

公益財団法人いきいき埼玉

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団

小久保委員

県内の児童養護施設について、原則的には18歳未満が利用要件となっており、その後の進路決定率は100%との記載があるが、この内訳として、就職率及び進学率はそれぞれ何%なのか。

(福) 埼玉県社会福事業団理事長

進路決定率についてであるが、就職を希望される方については、平成29年度100%である。進学を希望されている方の人数は年によってまちまちだが、平成29年度は18名中1名が進学、平成30年度は3名が進学を希望されており、進学を希望する方は率にすると平成29年度は5.6%、平成30年度は20%である。平成30年度の就職率は100%の予定で進めている。

小久保委員

就職については100%、進学については20%とのことだが、進路決定率とはどういう意味なのか。進路が決まったとのことか。就職と進学の内訳として平均値が決定率と思うがそのような決め方ではないようであるが。

(福) 埼玉県社会福事業団理事長

考え方としては、就職を希望している方については100%進めていく。進学を希望する方は、それを100%目指すという趣旨で、経営指標で100%を目指すとは、就職を希望される方の進路決定率100%という趣旨で記載している。

小久保委員

いずれも希望する進路に決まらなかった方は、無職という扱いになると思うが、これはどう考えるのか。

(福) 埼玉県社会福事業団理事長

無職という方はこの5年間いない。事業団においては、平成22年度から自立支援事業により、早い段階から社会就労体験事業であるとか、地域の方や企業OB方の方から御協力を頂いて、就職や進路決定の意識付けを早い段階から行い、就職の方については具体的な履歴書の書き方や面接の受け方など、定期的に学園で行っている。そういった取組により、学園を卒園する方については、全員が何らかの形で職を持って、あるいは学校を決めて卒園している。

小久保委員

就職が100%とのことだが、就職後に離職される方で、特に3年以内での離職率はどの程度か。

(福) 埼玉県社会福事業団理事長

就職をされた後、残念ながら離職をされる方がおり、平成29年度の離職率は35.3%であった。事業団では、先ほどの自立支援の取組の中の一つとして、アフターケアにも取

り組んでおり、卒園後も学園から定期的に連絡をしたり、卒園するときに学園の連絡先などを記載したアフターケアカードを渡して、何かあったら連絡ができるようにしている。離職者についても引き続き職員が支援をして、再就職につなげていく活動を行っている。

小久保委員

一般的には大学へは5割進学、専門学校へは2割進学とされているが、養護施設の場合の進学率は3割となっている。進学を希望した際、施設としてどのような取組を行っているのか。

(福) 埼玉県社会福祉事業団理事長

進学を希望するという気持ちを持っていただくために、早い段階から意識付けを学園の中で取り組んでいる。進学を希望された場合に、経済的な負担も生じ支援が必要になることから、奨学金制度や支援費の中で合計で約27万6,000円の支援がある。さらに、事業団においては、平成28年度から経済的負担をなるべく軽減できるよう、事業団独自の奨学金制度を設け、一人最高で50万円を支給する取組をしている。また、進学を希望された方が住居等の不安にならないように、県の施策なども活用し支援をしている。

浅野目委員

- 1 資料には卒園児童の進路決定率100%と書いてある、この100%の深いところに隠されている、上級学校への進学率も記載すべきではないか。上級学校に進学することだけが全てではないが、それが手の中に入れられないからこそ、貧困の連鎖が起きているという現象がある。2015年に立教大学、2017年に早稲田大学、2018年に青山学院大学が児童養護施設からの入学者の学費を無料化し、奨学金を給付している。しかも青山学院大学は養護施設に限る推薦入学制度も確立している。全国のトレンドとしては、受け入れる側の方が扉を開けている。養護施設自体もそういう子供達の背中を押すためにも一生懸命に学習活動も行っているとのことだが、進学率の目標値の書き方について改善を要望する。
- 2 希望の家は施設を出た後に、その後の就職などについて不安を持っている人たちを、温かくフォローするシステム。一軒まるごと借上げをして部屋に住まわせて、社会福祉士を一人置いているが、この状態は足りているのか。

(福) 埼玉県社会福祉事業団理事長

- 1 目標に大学等の進学率も含めるべきではないかとの御指摘については、いろいろな計画を立てているところだが、事業団としても卒園時の大学進学率を高めようとして取り組んでいる。25%を目標にして取り組んでいるが、今年度は20%、昨年度は5.6%という状況になっている。目標については、県の5か年計画でも定めがあり、事業団としても、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。
- 2 住まいの関係では、希望の家に事業団から卒園した方が毎年一人ずつ利用している。事業団の卒園児については足りている状況である。就職・進学された方もアフターケアの中で、あるいは卒園をする段階で住むところまで確認をしている。

こども安全課副課長

希望の家については、事業団の出身者は平成30年度で2人利用されている。県全体では15人利用されている。県内4か所の希望の家があり、現時点では足りている。

白土委員

- 1 埼玉県県民活動総合センターの運営の中に、けんかつバラフェスタ5月21日の参加者4,600人、けんかつ夏まつり8月19日の参加者6,000人などがあるが、この数字は「約」なのか。どういった集計をしているのか。
- 2 芸術劇場であるが、蜷川先生が亡くなってから、蜷川先生になんとか少しでも恩恵を頂きながら、次どうするのかというのが、なかなか発揮できていないと感じている。悪いとは言っていないが、今後どういう段階でどのように次の段階へと進むのか。今までの状況をみると蜷川先生一色ですばらしい指導力で公演活動をされているという記事を毎回見させていただいていた。それからすると、これからどう芸術劇場が運営されていくのかが見えてこないところがある。今後どのような方針で運営されていくのか。
- 3 オリンピックの文化プログラムにおいては、埼玉県芸術文化振興財団がリーダーシップを発揮すべきと考えるが、来年オリンピックを控えて、基本的な考え方もそういったものにも掲載されてない。今まで1万人のゴールド・シアターをオリンピックに目指していたように感じていたが、いろいろな経緯があって進んでいない。オリンピックのプログラムに関わっていくべきだと思っているが、どのように考えているのか。

(公財)いきいき埼玉理事長

- 1 御指摘のとおり概数である。入口でイベント来場者へチラシの配布しており、その数を基に集計している。

(公財)埼玉県芸術文化振興財団理事長

- 2 蜷川色が強すぎるとの指摘だが、蜷川芸術監督が亡くなって、これからどういう方向に持って行くか、ずっと考えてきた。その中で、蜷川さんが残してくれたレガシーをこのまましっかりと更に磨き上げていくという、蜷川レガシー劇場という方向を出している。それをシェイクスピアのシリーズで、弟子の吉田鋼太郎さんに引き受けてもらい、更に磨きをかけていくという方向で進めている。確かに、広報面で蜷川色が出過ぎているという部分があるが、実はもう一つの方向性というものを出している。それは社会の課題にしっかりとチャレンジするということでもある。一つは高齢化社会、障害を持たれている方々が社会からやや分断されていくという状況の中で、芸術文化の力によって、その人と人がつながる、人と社会がつながる形を目指して、仕掛け型のプロジェクトを立ち上げていく。それが正に、1万人のゴールド・シアターであり、出演者が1,600人の参加型の演劇である。それが2016年であり、蜷川さんの遺志を継いで行っているが、我々も意図して同じ方向性で進めている。もう一つ今の演劇においては、世界全体の大きな混乱や世界的な分断に対して、世界最前線のシリーズとして打ち出して、新しい演劇にチャレンジしている。まだ委員の目に留まるどころまで進んでいない状況であり、新しい展開を考えているところである。
- 3 オリンピックの文化プログラムについては、今年度9月に、ゴールド・アーツ・クラブを1万人のゴールド・シアターの出演者から結成し、県との共催で、世界ゴールド祭を開催した。これは日本で初の高齢者の芸術祭である。イギリス、オーストラリア、シンガポールなど世界の人とのつながりも含めて行った。芸術劇場を含めて16日間開催し、1万人くらいのお客様が来場し盛況となった。さらに、世界ゴールド祭を2020年のオリンピックの文化プログラムにも既につなげており、その際は5か国から招請して、高齢者が生き生きと活動できる場を作っていきたい。

白土委員

- 1 人数の集計については、チラシを配った人数としても、ぴったりと配ることは無いと思われるので、書類の信頼性が損なわれないように、しっかりとした数字を掲載してもらいたい。(要望)
- 2 蜷川芸術監督がダメということではなく、蜷川芸術監督一色になっているとも感じられないが、今後、何か新たな目玉になるようなものを検討しているのか。今までの流れも大事であるが、新たに変えるチャンスでもある。そこも含めて検討されているのか。
- 3 オリンピックに関しては、ゴールド・シアターで高齢者だけに焦点を当て続けるのも悪くないが、あらゆる世代を巻き込んだ文化プログラムを考えて欲しい。実際に行っていることもあると思うがどうか。

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団理事長

- 2 芸術監督を誰にするか決めることが一番大事なことだと思う。蜷川芸術監督は余人をもって代え難い方であり、亡くなられてから今年の5月で3年になるが、人選に苦労している。実は、新しい方向性をいろいろな形で模索しているが、最終的に決めかねている状況である。「蜷川レガシー劇場」はずっと続けていくが、もう一本の柱を決める時に芸術監督を誰に選定するかは、今しばらくお待ちいただくという話になる。
- 3 今後の方針を模索しており、若者向けの教育普及的な芸術性の高いものを作っていきたいと考えている。来年までに実現できるかは定かではないが、更に先にはそうした方向で考えていきたい。

並木委員

- 1 シニアの活躍について、7割ぐらいの方が今いる地域にこれからもずっと住み続けたいと話している中で、平成29年度事業報告書の下段にある「シルバー人材センターのイメージ転換を進める」とは何を指しているのか。「シニアパワーステーション」の名称を指しているのか、具体的に聞きたい。
- 2 これからシニアが増えていく中で、仕事量がそれほど増えず、年会費を払ってもそんなに仕事がないとの話も聞いているので、企業の開拓が絶対必要だと思うが、企業の開拓についてどのような取組をしているのか。

(公財) いきいき埼玉理事長

- 1 シルバー人材センターが男性中心の労務中心の業務ではないかと強く言われている。例えば、庭木の剪定、駐車場・駐輪場の整理などが、イメージとして強く伝わっている。実際はホワイトカラーの方々が、これからのシルバー人材センターの会員の方に入って来ていただくことから、決して単純労務的な仕事だけではなく、いろいろなキャリアを生かした仕事もしていただいているので、今回、埼玉県独自愛称を全国から募集し、2000件以上の応募の中から「シニアパワーステーション」と決定し、新しい仕事、今までにないやり方をしていきたいと考えている。特に女性の会員を「シルボンヌ」と呼び、会員になってもらう取組をしている。
- 2 マッチングがうまくできていないことがある。例えば、庭木の剪定などの需要があるが、技能を持っている方がいなく、3か月待ちとなっているケースもあり、マッチングをどうしていくかという点である。労働派遣事業については、平成29年度から企業に

直接訪問や電話により新規開拓をして、昨年度は12社と基本契約をさせていただいた。全国的に企業に訪問している所は余りなく、企業に行って仕事を取っている状況である。

秋山委員

- 1 参考資料1-1の39、40ページ、平成30年度の収支予算書では、労働者派遣事業収益が18億円であり、費用として派遣事業会員賃金が約14億円、交通費が960万円、法定福利費が1,362万9,000円である。これは、労働者派遣法に基づく事業であると思うが、雇用形態としては、いきいき埼玉が直接雇用して賃金を支払い、その中には法定福利費も交通費も出している。法定福利費の中には、社会保険、年金、健康保険、雇用保険、労災保険が完備されているのか。
- 2 平成30年度に見込んでいる就業者の延べ人数はどうか。
- 3 平均賃金はどのような水準か。
- 4 派遣期間が5年経過すると常用雇用になると思うが守られているか。対象は60歳以上の人だけか。
- 5 収益から費用を引くとおおよそ3億円となり、利益率は20%程度だと思うがどうか。

(公財)いきいき埼玉理事長

- 1 基本的に週20時間未満の就業が多い。法改正で週40時間まで拡大となったが、まだ指定は受けていない。現在は、生きがい就労の範囲内でやっているの、今後は社会保険等の支払の可能性はあるが、現時点では社会保険料の対象とはなる人はいない。今後就業時間が拡大された場合は対応する。
- 2 平成30年度の就業延べ人員は38万2,000人を見込んでいる。
- 3 基本的には最低賃金となっている。
- 4 シニアの会員は60歳以上である。現時点では法改正後5年を経過していないため、無期雇用になる会員はいないが、今後生じることもあり得るので、検討を進めていきたい。
- 5 資料の数字だけをみると20%となるが、手数料としては8%であり、企業の開拓、会員向け研修などの実施の費用に充てている。

秋山委員

春日部市のシルバー人材センターの請負委任で、手数料などが引かれると最低賃金を下回ることがあると聞くが、実態としてどうなのか。

(公財)いきいき埼玉理事長

シルバーの就業形態には2種類ある。請負委任と派遣就業であるが、請負委任では御指摘のようなこともある。

秋山委員

最低賃金を下回ることある請負委任よりも、派遣事業を増やす方が良いと考えるがどうか。

(公財)いきいき埼玉理事長

請負委任の需要もある。請負委任も伸ばしていくが、更に派遣事業についても伸ばしていきたい。